

2025 年 7 月 18 日

各 位

H . U . グ ル ー プ 中 央 研 究 所

「膵がん早期診断コンソーシアム」を発足
～細胞外小胞回収技術「EViSTEP®」をバイオマーカー探索に活用し、
膵がん検診をより一般的にする社会の実現へ～

当社は、このたび、自社開発の細胞外小胞（Extracellular Vesicles : EVs）関連基盤技術「EViSTEP（Extracellular Vesicle isolation and Storage Technology Platform）」を活用し、膵がんの早期診断をめざす共同研究体制「膵がん早期診断コンソーシアム」を発足したことをお知らせします。本コンソーシアムには、旭川医科大学、JA 尾道総合病院、広島大学、東京慈恵会医科大学が参画し、診断技術の社会実装をめざして取り組みます。

膵がんは、初期症状に乏しく早期発見が難しいがんの一つであり、ステージ 4 での 5 年生存率は約 3% と極めて低い一方、ステージ 0 では約 85% と、早期発見が生存率に直結します※¹ が、現時点では有効な早期診断法は確立されていません。こうした背景から、より早期の段階で膵がんを検出可能とする新たな診断マーカーの開発が期待されています。

当社が開発した EViSTEP は、独自の試薬・抗体と全自動回収機「Autoevis®」を用いて、血液や尿などの体液から高効率・高純度な EVs を回収する技術です。さらに、回収した EVs はルミパルス® L2400 にて EVs の定量ができることに加え、EVs 中に含まれるタンパク質や核酸などの網羅的な解析により疾患の状態を把握することが可能です。これまで実施してきた共同研究において、EViSTEP にて回収した EVs 内包物の解析結果によって臨床的有用性を示す成果も得られています。体液を用いた低侵襲な診断法であるリキッドバイオプシーは近年注目されており、画像診断や内視鏡では捉えにくい段階のがんの検出に適用できる可能性があります。当社は EViSTEP を用い、膵がんの早期診断を可能にする診断マーカーの探索研究に取り組んでいます。しかし、早期膵がんの検体は非常に希少であり、診断マーカーの探索研究を進めるためには多くの機関との連携が不可欠です。そのため、同じ目的を共有する 4 機関と協力し、本コンソーシアムを立ち上げました。各機関の専門性と当社の技術を活用し、膵がんの早期診断技術の確立と社会実装をめざしてまいります。

■「膵がん早期診断コンソーシアム」参画機関と役割

- ・ 旭川医科大学（EVs 中の RNA 解析）
- ・ JA 尾道総合病院、広島大学（「尾道方式」および「Hi-PEACE」による診断プロジェクト※²）
- ・ 東京慈恵会医科大学（EVs 中のタンパク質解析）
- ・ H.U.グループ中央研究所（技術提供）



■第56回日本膵臓学会大会にてランチョンセミナー開催

本コンソーシアムのキックオフとして、2025年7月25日（金）にホテルニューオータニ東京で開催される「第56回日本膵臓学会大会」にて、当社は初のランチョンセミナーを開催いたします。本セミナーでは、膵がん患者検体から EViSTEP を用いて回収した EVs 中の新規バイオマーカーの探索研究の解析結果を、膵がん診断の現状や EVs を含むリキッドバイオプシーの総論とあわせてご紹介いたします。

第56回日本膵臓学会大会：<https://pw-co.jp/jps56/>

※1 出典：日本膵臓学会 膵臓 32 巻 6. 膵上皮内癌の診断

※2 https://onomichi-gh.jp/cancer_med/pancreatic_cancer/

以上

【本件に関してのお問い合わせ先】

＜メディア関連の方＞

広報/サステナビリティ部 広報課 TEL：03-6279-0884 e-mail：pr@hugp.com

＜投資家・アナリストの方＞

IR/SR 部 TEL：03-6279-0926 e-mail：ir@hugp.com